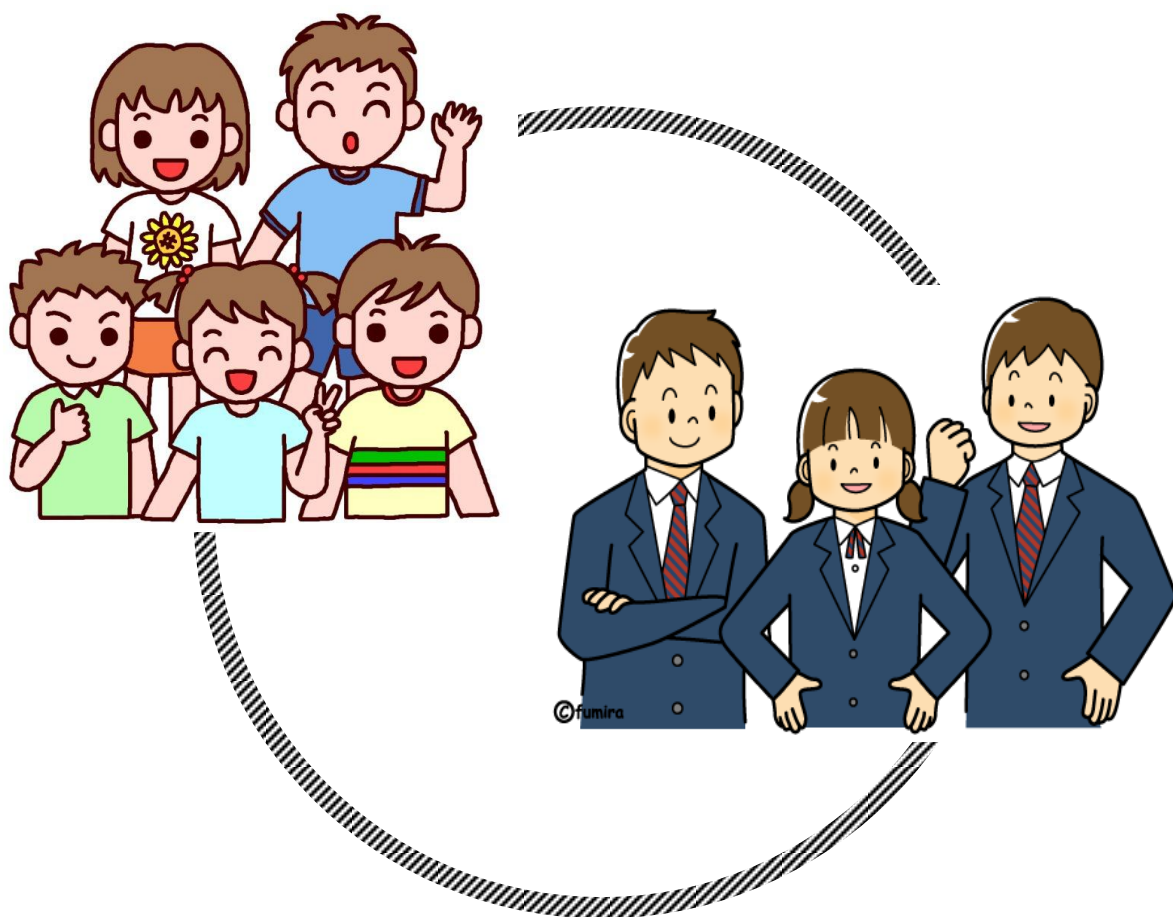


# 家庭学習のすすめ

平成25年版



大阪市立 港 中学校  
大阪市立池 島小学校  
大阪市立八幡屋小学校

# はじめに

子どもたちの学力向上をめざして、教職員一同、「基礎的・基本的な知識・技能をし  
っかりと身に付けさせる」「知識・技能を活用し、表現する力をはぐくむ」「学習に取り  
組む意欲の向上」などの育成に、取り組んでいます。そのため、各学校では、指導力の  
向上をめざして研修を積み重ね、「分かる授業」の実践に取り組んでいるところです。

「確かな学力」の育成には、授業の充実とともに、家庭での生活習慣や学習習慣など  
の確立が大切です。自主的に学習する習慣が身に付くためには、子ども自身の努力はも  
ちろん、学校と家庭との連携・協力が重要です。子どもたちのよりよい成長のためにも、  
学校・家庭それぞれの役割を十分に理解しながら、子どもの学習習慣が確立するよう協  
力しましょう。

ところで、この度、三校の教職員が検討を重ね、小中学校 9 年間活用していただける  
「家庭学習のすすめ」を作成いたしました。今後、改定があれば、その都度配布いたし  
ますが、中学校修了までの家庭学習の参考として保存のうえ、ぜひご活用いただきます  
ようお願いいたします。

平成 2 5 年 1 月

## 保護者の方へ…

# 『ひとり学び（家庭学習）を支える4つのポイント』

## 1 活力を生み出す

- 睡眠を十分にとる
- 生活リズムを整える



学習習慣を身に付けるためには、「早寝・早起き」や「朝食をしっかりとる」といった基本的な生活習慣が大切です。

## 2 ほめて・認めて・励ます

- 「よくできたね。」
- 「このごろがんばっているね。」
- 「もう少しだね。次はがんばろうね。」



子どもは「もっとよくなりたい」「もっとできるようになりたい」という気持ちをもっています。「やった」「できた」ことを認めてあげることで、子どもの学ぶ意欲を引き出し、「自分もやれるんだ」という自信を与えることができます。

また、子どもに直してほしいことがあるときも、頭ごなしに叱りつけるよりも、「どうすればうまくできるか、いっしょに考えよう」「次は大丈夫。期待しているよ」と励ます姿勢が大切です。

## 3 学習しやすい環境をつくる

- 学習する時間をつくる
- 学習する場所の環境をつくる

子どもが学習する場所のテレビ、CD ラジカセ等を消して、学習に集中しやすい環境をつくりましょう。子どもとテレビやゲームについての約束をつくり、守らせることも大切です。

## 4 見守る、一緒に学ぶ

- 学校での様子について関心をもつ
- いっしょに読書する

保護者の関心が自分に向いているかどうかは、子どもにも伝わります。また、「自分が習っていた時とは違っているので…」という声もよく聞きます。「勉強を教える」ことよりも、「勉強している姿を見守る」ことが大切です。そして、頑張っている姿を認め、やさしく背中を押してあげることも大切です。

学校であったことを話したり、家族でともに読書するなどの時間をつくってください。

元気もりもり！

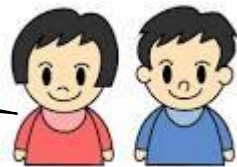
さあ、がんばろう。



しょうがっこう  
【小学校1・2年生の人へ】(がくしゅう  
ねんせい ひと  
学習のためやす:15~30分)

- 学<sup>がく</sup>習<sup>しゅう</sup>をする前に、つくえの上やそのまわりなど、自分が学<sup>がく</sup>習<sup>しゅう</sup>する場所をきちんと片付<sup>かたづ</sup>けましょう。
- 学<sup>がく</sup>習<sup>しゅう</sup>を始める前にテレビなどを消<sup>け</sup>しましょう。
- まず、はじめに宿<sup>しゅく</sup>題<sup>だい</sup>からしましょう。

さあ、<sup>がくしゅう</sup>学習をしてみましょう



こく　　ご  
《国　　語》

## ① ひらがな・カタカナ・漢字などの練習

- ☐ 教科書やお手本の字の形をよく見て、正しく書けるように練習しましょう。  
☐ 鉛筆の持ち方や姿勢に気をつけて、ていねいに書きましょう。  
☐ 教科書や好きな本にのっている文を、ノートに書き写しましょう。「、」「。」「一字下げ」に気をつけて写しましょう。

② おんどく 音読

- ☐ 声に出して教科書を読みましょう。
- ☐ 句読点（「、」「。」）に気をつけてすらすら読めるように練習しましょう。
- ☐ 毎日続けて、おぼえるくらい読みましょう。

③ <sup>さくぶん</sup>作文・<sup>にっき</sup>日記

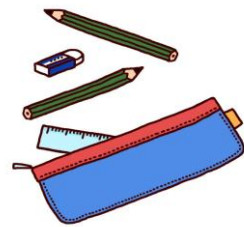
- 楽しかったことやおもしろかったことなどを自分の言葉で文に書きましょう。絵にかいたり、絵日記や手紙にしたりしましょう。いろいろな書き方をしてみましょう。

⇒ 保護者の方が、書いた字や筆順を見たり、音読を聞いたり、日記などの感想を言ったりするのも子どもにとってうれしいでしょう。

さん すう  
《算 数》

① けいさんれんしゅう  
**計算練習**

- たし算やひき算が正しくできるように、計算カードなどで何度も繰り返し練習しましょう。間違った問題は、答えが合うまでやり直しましょう。
- 九九が正しく言えるように、何度も練習しましょう。
- 最初はスピードよりも正しく計算できるように計算の仕方を身に付けましょう。正しく計算できるようになったら、だんだん速く計算できるように練習しましょう。



## ② <sup>もんだい</sup>問題づくり

- たし算<sup>さん</sup>やひき算<sup>さん</sup>のお話<sup>はなし</sup>（問題<sup>もんだい</sup>）をつく<sup>つく</sup>をしましょう。

⇒ 一緒に買い物をしたり、時計をよんだり、問題に答えたりすると喜んでするでしょう。

## 《読書》

□ 学校の図書室でいろいろな読み物をかりて、おうちや寮で読みましょう。

⇒ 保護者の方が読んだり、子どもが読むのを聞いたり、物語文なら役割を決めて一緒に読んだりするといいです。読み聞かせも効果的です。



## 《その他》

□ おうちの人や寮の先生と相談して、お手伝いを決めて毎日続けましょう。

□ なわとびや折り紙などにも、挑戦しましょう。

□ けん玉・あやとり・かるた等、古くから伝わる遊びなどにも挑戦しましょう。

□ 公園や家・寮のまわりの木や草から、自分が気に入ったものを決めて、その木や草の葉の様子を見たり、春や夏でどんなふうに変わっていくかを見たりして、かんさつ日記をつけましょう。

## 保護者の方へ



### ① 学習の特徴は・・・

- 「読み、書き、計算」などの基礎的な学習がはじまります。
- 低学年の学習の多くは、身の周りの生活と結びついて、具体物を使って考えたり、繰り返し練習したりして学習内容を自分のものにしていきます。

### ② 学習習慣を身につけさせるためには・・・

- 「早寝早起き、朝ごはん」「朝の排便」などの基本的な生活習慣のリズムの中で、学習習慣が身についていきます。
- 家庭学習の第一歩は、毎日「宿題をやりきること」「明日の授業の準備を自分ですること」です。
- はじめは、学校からの連絡やお便りを子どもと一緒に確かめる、学習時間を決めるなど保護者の助けも必要です。

⇒ 学習時間はめやすとして、示してあります。子どもと相談して決めてください。

### ③ 認めてほめる

- この時期の子どもは「もっと知りたい」「もっとできるようになりたい」という気持ちでいっぱいです。できないことを叱るより、「しようとする気持ち」「できるようになったこと」を「自分でやろうとするのはすてきだよ」「ここまでできたね」と認めてほめることで、子どもはさらにやる気になります。

# 【小学校3・4年生の人へ】(学習のめやす:30~50分)

- 自分が決めた時刻になったら、すすんで学習しましょう。
- 学習を始める前に、学習する場所を片付け、テレビや音楽を消しましょう。
- 宿題をすませてから、自分の学習に取り組みましょう。



さあ、学習をしてみましょう

## 《国 語》

### ① 漢字・ローマ字練習など

- 漢字の形をよく見て、とめ、はね、はらいなどに気をつけて、正確に文字が書けるように練習しましょう。書き順、読み、送り仮名や文字の組み立てにも注意しましょう。
- 生活の中で使われているローマ字を、見つけましょう。
- 教科書や好きな本にのっている文章を、視写しましょう。

### ② 音読

- 毎日、音読をする習慣を身に付けましょう。速さや間の取り方、声の大きさに気をつけて、気持ちや様子が表れるように声に出して読みましょう。会話文は、気持ちを考えて声に出して読みましょう。短歌や俳句の暗唱にも挑戦しましょう。

### ③ 作文・日記

- 自分が思ったこと、その日にあったことなどを、はじめ・なか・おわりなど、文章の組み立てを考えて書きましょう。

### ④ 国語辞典・漢字辞典を使う

- 教科書に出てきたわからない言葉や漢字を調べたり、その言葉や漢字を使って文章を作ったりしてみましょう。

## 《算 数》

### ① 計算練習

- ひっ算は位をそろえて書き、手順を確かめながら計算しましょう。かけ算や割り算などの正しい計算の仕方が身に付くよう繰り返し練習しましょう。
- 正しく計算できるようになったら、だんだん速くできるように練習しましょう。

### ② 問題づくり・身の周りの算数さがし

- 式を立ててから、文章の問題を作りましょう。身の周りの出来事などを問題にしてみましょう。
- 習った図形の形を身の周りから見つけたり、時計を見て時間の計算をしたりしましょう。

### ③ コンパス・分度器を使う

- コンパスや分度器などが正確に使えるように繰り返し練習しましょう。

## 《社 会》

- 地図に親しみましょう。地図記号や八方位を覚えましょう。大阪市のまわりの市町村や47都道府県の名前や位置などを調べましょう。旅行する気分になって、地図にのっている鉄道や道路をたどってみたり、おもしろい地名を探したりするのもいいですね。

## 《理 科》

- 公園や家・寮のまわりなど場所を決めて、いろいろな植物やこん虫などを見つけましょう。季節の変化で、植物がどのように変わっていくかを調べましょう。観察日記を書くのもいいですね。



## 《読 書》

- 物語、歴史や科学の本、スポーツの本など、いろいろな種類の本を読みましょう。読んだことをおうちの人や寮の先生に話したり、読んだ日付・本の題名・作者・簡単な一言感想を書いたりするのもいいですね。

## 《その他》

- おうちの人や寮の先生と相談してお手伝いを決めて、毎日続けてしましょう。
- 音楽で習ったりコーダーの曲を練習したり、なわとびなどに挑戦したりしましょう。
- 学校で習ったことの復習を、その日のうちにしましょう。



### 保護者の方へ

#### ① 学習の特徴は・・・

- 社会や理科、総合的な学習の時間などの学習が始まります。国語辞典や地図帳などを使って、自分で調べるといった学習も増えます。算数では四則計算（＋、－、×、÷）の基礎・基本とともに、分数や小数など少しずつ抽象的な内容も学ぶようになります。

#### ② 自主的な学習習慣を身につけさせるには・・・

- 学習をする前に、学習する場所の整理整頓を行い、自分から机に向かう姿勢と集中して取り組む習慣を付けさせることが重要です。
- 自分で今日の宿題を確認させ、必ずやりきらせましょう。ただし、おうちや寮の方が宿題や持ち物を一緒に確認するなどの手助けが必要です。徐々に自分でできるよう支援していきましょう。

#### ③ 継続した声かけを

- 中学年の子どもたちは、学校生活にずいぶん慣れ、自立心が芽生えてくるとともに、自分でできることも多くなってきます。その一方で、1・2年生で身に付いた学習習慣がくずれがちになったり、「急に勉強が難しくなった」と苦手意識を持ったりする子どもも出てきます。
- おうちや寮の方のあたたかい助言や励ましの言葉が、子どもの自信ややる気をふくらませます。途中でなげださずにやって「できた」「わかった」という喜びが、学習習慣を身に付けることにつながります。

# 【小学校5・6年生の人へ】(学習のめやす:50~70分)

- 遊ぶ時間帯と学習する時間帯とをはっきり分けましょう。
- 机の上の整理整頓やテレビを消すなど、学習に集中できる環境にしましょう。
- 一週間くらいの学習計画を立てて、いろいろな教科の学習に挑戦しましょう。

さあ、こんな学習をしてみましょう

## 《国 語》

- 新しくでてきた語句や漢字の意味は、辞書で確認しましょう。漢字の由来や意味が分かると覚えやすくなります。
- 漢字の構成や字形を意識して練習しましょう。国語辞典や漢字辞典を使いましょう。習った漢字をもとに、自分で漢字のテストを作ってやってみるのもいいですね。
- 情景や登場人物の気持ちが伝わるように、強弱や・速さ・間の取り方を工夫して教科書を音読しましょう。
- 詩や俳句、有名な文学や古典の読み物の書き出しの部分などを暗唱したり、朗読したりしましょう。視写するのもいいですね。
- 俳句や短文づくりに取り組んだり、興味のあるニュースを見つけて意見文を書いたりしましょう。



## 《算 数》

- 計算問題の答え合わせを自分でできるようにしましょう。よく間違える計算は、手順や仕組みを確かめて間違えた原因を確認する習慣をつけましょう。また、よく間違える計算は繰り返し練習しましょう。
- 分数や小数の計算では、答えが出るまで、途中の計算を書き残すようにすると、間違えた原因を自分で見つけることができます。正しくできるまで練習しましょう。
- 身の周りの〈算数さがし〉をしましょう。比例、割合、立体などは、生活の中でたくさん使われています。

## 《社 会》

- テレビや新聞に出てきた国名や地名を地図でチェックしてみましょう。旅行する気分になって世界の主な大陸と海洋、主な国の名称と位置などを調べるのもいいですね。
- 歴史上の人物や出来事、時代の特徴を調べたり、それらについて書いた本を読んだりしましょう。わたしたちの生活と比較しながら、調べたり読んだりしたことを年表や新聞、4コママンガにしてまとめるのもいいですね。
- スーパーなどで売っている野菜の産地を見て、地図帳で場所を確かめたり、生産高を確認したりしながら産業の様子を学習しましょう。



## 《理 科》

- 自分でテーマを決めて自由研究に取り組みましょう。学習したことを身の周りで探したり、魚や昆虫の飼育、植物の栽培をしたりして、調べたことを新聞やレポートにまとめてみるのもいいですね。

## 《読 書》

- 物語、詩、古典、伝記、科学や芸術など、読書のジャンルを広げてみましょう。同じ作者の本、同じテーマの本などで読み比べてみましょう。



## 《その他》

- 宿題でわからないところは教科書やノートなどを見ながらあきらめずにがんばりましょう。また、学校の学習内容を振り返りながら、教科書やノートなどを参考にして、苦手な学習内容を復習したり、次の学習の予習をしたりすることも大切です。
- これまでの学年の学習を見直してみましょう。例えば、算数では小数や分数のかけ算とわり算を学びますが、これまでの整数の計算や文章題などで計算の意味や仕組みが理解できていると、意欲的に学習の取り組むことができます。
- 新聞記事やテレビニュースなどおうちや寮の先生と話題にして社会に目を向けましょう。
- 学習した内容を生活の中で実践したり、生かしたりできるようにしましょう。
- お手伝いをしっかり続けましょう。

## 保護者の方へ



### ① 学習の特徴は・・・

- 家庭科の学習が始まり、衣食住の基礎・基本を学びます。算数では分数の通分、約分に加えて分数のかけ算、わり算も学習します。学習内容が多くなり、論理的な内容や抽象的な思考を伴う学習コンピュータや図書などを使って調べる学習が増えます。
- 学校では、委員会活動、宿泊行事などで協調性や責任感が一層もとめられるようになります。

### ② 自主的な学習習慣を身に付けさせるには・・・

- 自ら学ぶことのおもしろさや楽しさを経験することで、ものの見方や考え方を身に付けることができます。「歴史が好き」「計算は得意」などのように、得意な科目、好きな分野が見つかりと勉強好きになるきっかけにもなります。興味関心をもったものに対してどんどん取り組ませるのもいいでしょう。
- 夜更かしなど生活のリズムの乱れや、おしゃれなどへの過度の関心は学習習慣に影響を及ぼします。子どもたちの放課後もずいぶん忙しくなります。もう一度生活習慣を見直し、自分に合った計画を立てて学習を進めさせることが重要です。

### ③ 子どもの学習をしている姿を見守り認める

- 高学年の子どもたちは、思春期を目の前にし、友人関係に悩んだり、劣等感を抱いたり、時には大人への反抗も見られるようになります。ちょっとした変化も見逃さずに見守ることが必要です。「やればできる」という気持ちを持たせ、子どもの自尊感情を育てるように、ほめたり励ましたりすることが大切です。

## 小学校から中学校へ

中学生になると心身の発達に合わせて、学習面や生活面など、すべてにわたって自分の責任をもって決定することが今まで以上に必要となります。そこで、小学校1年生のうちから、自主的に学習に取り組む姿勢をしだいに身に付けさせることが大切です。特に5・6年生では、自分の意思をはっきりともたせ、中学校で自主性を促された時に、「何をしたらいいのか分からない」状態にならないように準備しましょう。

# 【中学校 1・2年生の人へ】(学習のめやす: 90~120分)

## ● 自分の生活リズムの中に、自主学習を入れよう

- ・ 中学校では、教科ごとに先生がかわる、いわゆる教科担任制になります。また、部活動なども始まります。まず、中学校の生活リズムに慣れることが大切です。学習と部活動などとの両立は慣れるまで大変ですが、時間を有効に使うことを心がけましょう。短い時間からでも良いので、必ず自主学習を行う習慣をつけましょう。
- ・ 学習内容が小学校に比べて広がるとともに詳しくなり、学習量も多くなります。定期テストもあります。宿題のあるなしにかかわらず、自分で計画的に学習を進める必要があります。



## ● 自分に合った家庭学習の方法を見つけよう

- ・ 家庭学習で大切なことは、「まず宿題をすること」です。各教科の授業中に「〇〇をやっておくように」と指示されたことは必ずやりましょう。そして、宿題だけで終わらずに予習や復習を行うことも忘れてはいけません。その日の授業内容をその日のうちにふりかえり、ポイントを整理するなどして確認したり、教科書を読む、英単語の練習をするなどの予習をしたりしましょう。
- ・ 学習時間を「宿題以外に、『20分×4教科の学習』で1日80分しよう」などと決めて規則正しく続けましょう。

## ● 分からないことをそのままにしない

- ・ 分からないことが出てきたら、できるだけ早く解決することです。自分で教科書を見直したり、例題で考え方を確かめたり、友達や先生に相談したりするとよいでしょう。分からないことをそのままにすると、授業にまったくついていけなくなることもあります。

「覚えることがなかなかできない…」という  
声を耳にします。

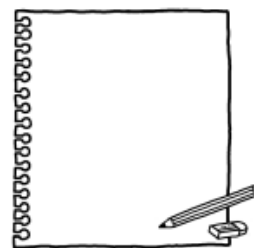
そういう人は、「3回繰り返して読む」と  
いうことをとにかく一度やってみよう！



# 【中学校3年生の人へ】（学習のめやす：180分以上）

## ● 自分の将来を見すえた目標をはっきり持とう

- 自分の進路を選択する人生の節目の時期です。「やらなくては」と思いながらその通りできない自分にあせったり、いらだったりしがちです。学校や寮の先生、おうちの方とよく話し合っ、将来を見すえた具体的な目標をもつことが、意欲の向上・学習への集中につながります。ぜひ、話し合いの時間を持ちましょう。



## ● 年間スケジュールを立てよう

- 3年生は、中学校3年間のまとめの時期です。1・2年生の学習を含めて総復習をするための時間が必要になります。このことも学習に入れましょう。
- 1年間の学習のスケジュールを考えることで、どの時期に自分が何をすべきかがはっきりします。特に、夏休みや冬休みは、継続的に学習できる絶好の機会です。夏休みは1・2年生の時の復習、冬休みはラストスパートなど、しっかり計画を立てましょう。

## ● 時間を有効に使おう・授業を大切にしよう

- 3年生は行事や部活動で中心になって活動することになります。起床から就寝までの生活の見直しを行い、時間の使い方を工夫し、学習との両立を図るのも大切です。
- 学校での授業をおろそかにして家庭学習だけがんばれば良い、という考えはまちがっています。授業と家庭学習の両立で、学力を大きく伸ばすことができます。



夜遅くまで勉強する人は、テストの日程に合わせて「朝型」に変えていこう。

一年間の長期計画と、テスト前や普段の学習計画を実行しよう。



## 《国 語》

☆ 日常生活、コミュニケーション、学習、考えることなど・・・言葉が必要です。 国語の学習が大切なことは誰もが認めることでしょう。

### □ 声に出して読む

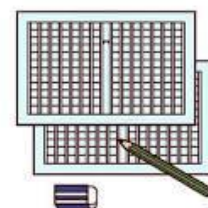
「声に出して読む」ことは、文章を理解するための第一歩です。教科書の文章を声に出して読むことで、読めない漢字に気がついたり、内容も頭に浮かんだりするようになります。毎日1度は声に出して文章を読むことで、自然と読解力がついてきます。好きな詩や俳句など暗唱するのも効果的です。

### □ 漢字を書いて覚える

漢字は機械的に書くより、へんやつくり、字形を意識して書くと頭に入りやすく、忘れにくくなります。「考えながら書く」ことで確実に覚えましょう。

### □ 意味の分からない語句は辞書で調べる

分からない漢字や語句が出てきたらすぐに辞書で調べましょう。そうすることで今まで知らなかった漢字や語句を使えるようになります。「わからないから」と安易にひらがなで書いたり、簡単な語句ばかり使って文章を書いていると、なかなか力がつきません。「辞書を引いて、分かる漢字や語句を増やす」ことはとても大切です。



## 【学習方法のアドバイス】

### ○ 音読の回数は？

1日1回でもいいので、毎日続けましょう。

### ○ 漢字の練習は？

別に漢字ノートを用意し、毎日5～10くらいの漢字をそれぞれ1行程度書きます。

### ○ 分からない言葉が多いときは？

何日間かに分けて調べ、最後には分からない言葉をなくすようにしましょう。安易に人に聞くのではなく、できる限り自分で辞書を使って調べましょう。

### ○ 読書はどんな本でもいいの？

まずは、いろいろな本に挑戦してみましょう。物語や好きなスポーツや音楽についての本などいろいろあります。その中で気に入ったものが見つかれば、同じ作者の本、同じテーマの本などを読んでいけば良いでしょう。また、各教科の先生から紹介された本や夏休みの課題図書を読んでみるのも有効です。さらに学校や地域の図書館に行き、たくさんの本にふれると、「こんな本も読んでみたいな」という気持ちが高まるはずです。

## 《社 会》

☆ 世界はいろいろなところでつながり合い、私達の生活と密接に関連しています。歴史も現在につながっています。社会科で学習することは、今とこれからの社会の発展を考える上で必要です。

### □ 学習したことをまとめる

復習に重点をおき、「教科書から重要語句や人物などをチェックしてノートに書く⇒資料・地図などで重要語句や人物を確かめてメモする」など、授業中に学習したことを分かりやすくまとめましょう。関係する事柄を図に表すのも良いでしょう。

□ 学習した内容を詳しく調べる

教科書に出てきた国や地域、歴史上の人物や出来事などを図書館の本やインターネット等を活用して、より詳しく調べてみましょう。また、例えば、食品の表示されている原産国を調べるなど身の周りにある食品や工業製品がどこでできているかなど調べてみるのも良いでしょう。

□ 新聞やテレビのニュース・話題について考える

学習したことを社会の動きと関連させたり、生活の中で見つけたりすることも大切な学習といえます。また、地域や社会の出来事に関心を持ち、新聞やテレビなどで話題になっていることを自分でも考えて見る習慣をつけましょう。

### 【学習方法のアドバイス】

○ 地理的分野は？



地図帳をおおいに活用しましょう。教科書に出てきた地名は地図で「どのあたりに位置するのか」を必ず確認するようにしましょう。グラフや資料からおおまかな傾向をつかんだり、正確に読み取ったりできるようになりましょう。

○ 歴史的な分野は？

時代の流れや特徴をつかむことが大切です。歴史に関する本を読むことが有効です。また、日本と世界のできごとをならべた年表を自分で作ってみるのも良いでしょう。

○ 公民的な分野は？

わからない公民の用語は必ず調べましょう。また、ニュースや新聞記事の内容が教科書のどのページと関係があるのかを探すと理解が深まります。インターネットなどを利用するのもたいへん効果的です。

## 《数 学》

☆ 生活していくうえで、物事を論理的に考え表現することがとても大切になってきます。数学で文章題や図形の証明問題など様々なことを学習することでそのような力が身に付きます。



□ 授業で学習した内容をその日のうちにやり直す

授業で学習した内容を自分のものにするには繰り返し復習することが大切です。よくまちがえる計算などは教科書の例題をもとに手順や仕組みを確かめて、まちがいの原因を確認する習慣をつけます。

□ 教科書の例題を理解する

教科書の例題には基本となる解き方や考え方が示されています。まず、例題に示されている解き方、式の意味や計算の仕方などを手がかりに「自分で分かったと納得するまで」取り組むことが大切です。そしてもう一度、自分の力で解いてきちんと理解できているか必ずチェックしましょう。そのあと練習問題に挑戦しましょう。

□ いろいろな問題を解く

基本的な解き方がわかっても文章題の表現が違ったり、問題の出され方が違ったりすると解けないことがあります。教科書の例題をもう一度やり直したり、授業中に学習した文章題と同じ種類の問題をしたりなど、いろいろな問題に慣れることも大切です。

### 【学習方法のアドバイス】

#### ○ 式の計算・方程式は？

力をつけるには練習が第一です。まず、正しく解くこと、次にスピードをあげることを目標にコツコツ練習しましょう。

#### ○ 図形は？

証明問題は例題や解説を見て、条件や考え方、証明の書き方などを理解しましょう。また、問題を読んで自分で図をかく練習も大切です。面積、体積、角度を求める問題は図形の性質や定理を確認して使えるようにしましょう。

#### ○ 関数や確率は？

関数の問題はグラフや表と式の関係を理解することが大切です。確率は図や表をかくと分かりやすくなります。

## 《理 科》

☆ 身の周りの工業製品は科学技術の結集したものです。自然の現象も私達の生活と密接な関わりをもっています。理科を学ぶことで自然の事物・現象についての理解、科学的な見方や考え方を身に付けることができます。

#### □ 教科書・ノートを見直す

教科書やノート、プリントには学習のポイントがつまっています。授業があった日に、それらを見て授業で学習したことをまとめることで理解が進みます。内容を図にまとめるのも良いでしょう。



#### □ 実験・観察は「目的・方法・結果・考察」をまとめる

授業でした実験について「方法・手順」「結果から何がいえなのか」を一つのまとまりとして、図やグラフも利用して自分なりに整理するとよく理解できます。

#### □ 学習内容と関係することを身の周りで見つける

学習内容と日常生活や社会との関連を考えたり、学習内容をもとにしてものづくりをしたり、観察や観測をしたりすると、原理や法則の理解が深まります。自由研究にも挑戦しましょう。

### 【学習方法のアドバイス】

#### ○ ノートの整理は？

教科書を自分なりに整理しましょう。図や色づかいなどを工夫してまとめると分かりやすくなります。

#### ○ 実験のまとめは？

「～だから、これがいえる」という結論とその根拠をはっきり書くこと、器具の操作方法、試薬の性質、実験上の注意点なども大切なポイントです。

#### ○ 教科書を分かるまで読む

教科書の問題には考え方・解き方が示されています。自分で「わかった」と納得するまで取り組むことが大切です。練習問題にも挑戦しましょう。

## 《英 語》

☆ 国際化が進んでいます。英語は皆さんが世界と出会うための一つの「道具」のようなものです。英語を学ぶことで、他の言語や文化への理解が深まったり、自分の可能性を伸ばしたりできるはずです。

### □ 声に出して読む

授業の中で先生の発音をしっかり聞き取り、正確に発音するように心掛けます。「習った日に自分で音読する」ことが大切です。

### □ 書いて覚える

教科書を見て単語や英文をゆっくりと発音しながら正しく書き写します。「覚えるまで繰り返し書く」ことが大切です。単語も文の中で覚えること、他の語と組み合わせることで、その語の意味やイメージが定着しやすくなります。

### □ 基本文をマスターする

教科書の各ページに載っている「基本文」は「意味が分かる、読める、書ける」を目標に声に出して繰り返し書く練習をしてマスターしましょう。基本文の意味を日本語で書いて、今度はその日本文を見ながら英文で言ったり書いたりできるようにしましょう。

## 【学習方法のアドバイス】



### ○ 英語の上達は？

とにかく毎日、英語に慣れることです。例えば、音読なら、習った教科書の文を最低 3 回、できれば 5 回以上読むといいでしょう。また、習った表現を積極的に使って英語日記などにもチャレンジしましょう。

### ○ 単語の覚え方は？

単語ならノート 1 行分、英文なら 1 文につき 5 回くらい書くとよいでしょう。時間をおいて復習し、書けなかったものを中心に繰り返し練習しましょう。

### ○ リスニング力をつけるには？

英語の音になれることです。しっかりとした音読ができると、リスニング力もアップします。ラジオやテレビの語学番組を活用するのもよいでしょう。

## 《その他》

□ 手伝いなど家族の一員としての役割を持ち、それをしっかり果たしましょう。

□ スポーツなどで体を動かしましょう。

□ 読書したり、展覧会に行ったりするなど、すばらしい文学や芸術にふれる機会をたくさん作りましょう。